

うし、これは来年の大会の問題に出すぞと思ったのでした。その翌年出した問題は次の通りです。これ以上
上の問題はつくりえないと思つてゐるのです。

第三十九回全国大会 決勝問題（一分間四〇〇字、反文十五分）（昭和四十四年）

『皆さん、地球上にはいろいろな民族が住んでおりますが、みなそれぞれ自分の民族のことばを持つてお
るのであります。われわれは日本人でありますから、もちろん日本語を使って生活しておりますが、皆さ
んは日本語の中でどうということばがもつともよいことばであるかということばを考えたいことがあ
るでしょう。実は私自身それを考えたことがなかったのであります。ところが昨年の全国大会のとき、速記学生は
親孝行な学生であるという問題を出したことから、さらに考えて、私は日本語の中でもつともよいことば
は何であるかということばを発見したのであります。それはどうということばであるかといえば、おとうさん
おかあさんということばであります。まことにいたつて平凡なことばであつて、皆さんはどう思われるか
わかりませんが、私にとってはこれほど美しいことば、これほど情味のこもつたことば、これほど私の胸
を打つことばはほかにありません。これこそつともよい日本語であると思つたのであります。』